

グループ名	ユニット名等	科 目 名	担当教員名	対象学年次	学期
自己発見	2単位 文化を知る	文学	渡邊 淳子	1年次	春

授業のキーワード	自我、エゴイズム、孤独
授業の概要	明治維新により、西欧の新しい文学手法が入って来て、日本の文学がどのように変化していったかを“小説”の分野を通して見てゆきます。今年度は特に“自我意識”がどのように描かれていったか検討します。
期待される学習成果（目標）	1.公務員試験などに出現頻度の高い近代文学史を学習できます。 2.西欧文学手法による新しい日本の近代小説の展開をまなぶことが出来ます。 3.文学の本質とは何かということに向き合うことが出来ます。

## 授 業 展 開

	テーマ	内 容		テーマ	内 容
第1講	導入	半年間の授業の紹介と受講上の留意点の説明、参考文献の紹介等を行います。	第9講	志賀直哉	『暗夜行路』の主人公時任謙作の苦悩について検討します。
第2講	近代文学史概観 その1	明治初期から中期にかけての新しい小説の動向を概観します。	第10講	太宰治 その1	『トカトントン』と『人間失格』を通して、人間の虚無とデカダンスについて考えます。
第3講	近代文学史概観 その2	明治中期から後半期の小説の動向を概観します。	第11講	太宰治 その2	『人間失格』を通して、デカダンス、葉蔵の道化等について考えます。
第4講	近代文学史概観 その3	第3講のつづき	第12講	梶井基次郎	『檸檬』が人間の自我意識をどのように描き出したか検討します。
第5講	近代文学史概観 その4	大正期の小説の動向を概観します。	第13講	中島敦	『山月記』を通して人間の焦燥感と心の闇について考えます。
第6講	夏目漱石 その1	『三四郎』のストレシーブについて考えます。	第14講	まとめ	近代小説が”自我”をいかに描き出してきたかまとめ、日本の近代文学の生成の特色について考察します。
第7講	夏目漱石 その2	『行人』の一郎をとおして、人間の何が描き出されているか考えます。	第15講	文学の意味	文学とは人間にとっていかなる意味があるのか、考察します。
第8講	夏目漱石 その3	『こころ』をとおして人間の孤独について考えます。	定期試験		レポート試験
評価方法		レポート60% 授業貢献度40%			
使用する教科書（必ず購入してください）			参 考 文 献		
特に使用しません。			○江藤享『漱石とその時代』第一部、第二部、新潮選書 ○石原千秋『漱石はどう読まれてきたか』 新潮選書 ○新井均『志賀直哉論』教育出版センター		